

## ドル円相場への新型肺炎の影響は?

**2** 月に入ってから、国内外で新型肺炎の流行が拡大しているが、ドル円においてはリスクオフ(回避)の円高が表面化していない。新型肺炎の早期終息や中国の経済対策への期待から、リスクオフの動きが限定的に留まっているうえ、一時的にリスクオフに振れる場面においても、流動性が高く景気も堅調な米国のドルが円と同時に買われているためだ。結果、ドル円は足元でも109円台後半と堅調に推移している。

しかしながら、今後はやや円高に振れる可能性が高い。3月以降には新型肺炎流行後の内外経済指標が公表されることになるが、中国を中心にかなりの悪化が想定されるうえ、企業業績への悪影響も次第に明らかになってくるため、市場がリスクオフに傾きやすくなる。さらに米国経済も無傷では済まないとみられるためドル買いが鈍り、ドル円でもやや円高が進みやすくなるだろう。3か月後の水準は108円前後と予想している。

ユーロ円は、今月に入ってドイツの経済指標悪化や政局不安を受けたユーロ売り対ユーロでのリスクオフの円買いによって下落し、足元は118円台後半で推移している。既に投機筋のユーロ売りポジションが溜まっていることはユーロの下支えとなるが、一方で新型肺炎の流行拡大は欧州経済にとっても重荷になる。また、今後もリスクオフの円高圧力が見込まれることから、3か月後の水準は現状比でやや円高ユーロ安の118円前後とみている。

長期金利は今月に入って▲0.0%台前半から半ばと小幅なマイナス圏で推移しており、足元も▲0.05%にある。今後もリスクオフに伴う安全資産の国債需要が金利低下に働くが、昨年、日銀が幾度も追加緩和を匂わせながら回避したことが示すように、追加緩和のハードルは高いことから、追加緩和観測は高まりにくいだろう。また、日銀が超長期金利の低迷を是正しようとしていることも長期金利の低下を抑制する。従って、3か月後の水準は現状比で若干の低下に留まると見ている。



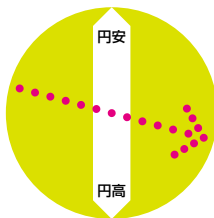
シニアエコノミスト **上野 剛志**  
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、  
2001年同財務審査部配属、  
2007年日本経済研究センターへ派遣、  
2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、  
2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

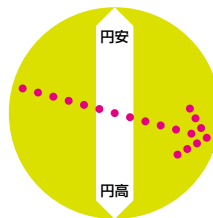


# Market Karte

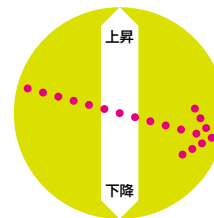
March 2020



ドル円・3か月後の見通し

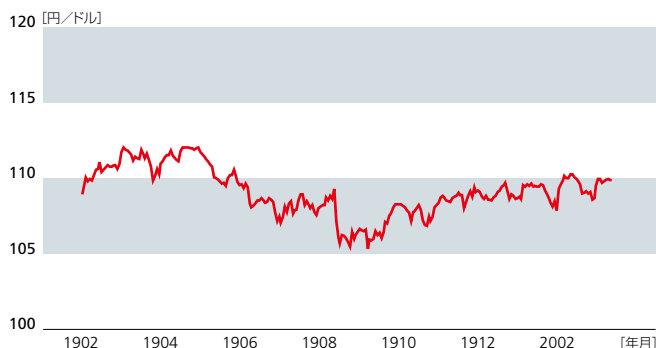


ユーロ円・3か月後の見通し

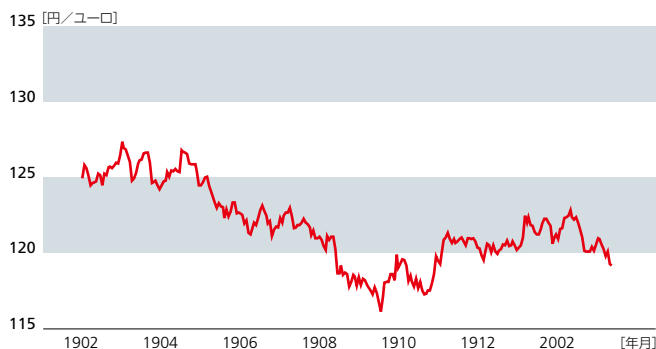


長期金利・3か月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

